

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300059		
法人名	合資会社大森産業		
事業所名	グループホーム樹の里おおもり		
所在地	秋田県横手市大森町字町田39-1		
自己評価作成日	平成27年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔・笑い声の多いホームであるように力を入れています。当年は特に働く職員が楽しんで働ける雰囲気づくりに力をいれ、代表社員も共に職員旅行を楽しみました。職員が生き生きと向上心をもって働き、利用者が心地よく楽しく暮らせる環境の提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が各種の委員を担当して避難訓練や研修等を責任を持って実施されており、ユニット間の連携が図られてチームケアの向上に繋がっています。また、記録の仕方を工夫して利用者の状態把握に努め、利用者主体の支援が行われています。近所にできた有料老人ホーム職員が運営推進会議に参加され、相互協力できる体制づくりについて話し合われたり、地域の方々とも活発に討議されて地域に根差したホームづくりに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は自分が認知症になったらを考え、皆で理念を作りあげました。その理念を玄関に大きく掲げることにより職員全員が支援に入る前に意識付けできるようになっています。	利用者との日常生活の中で表情や行動を観察しながら支援されており、理念を実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居されている方の関係者だけではなく、近隣の方、有料老人ホームの方たちが畑や花を観に来てくれています。施設という特別な存在ではなく、隣の大きな家という感じで野菜やお花をいただくことも多く、自然に地域との交流が図れています。	畑を見に来てくれる方と窓から顔を出して会話されたり、ぶどう狩りのお土産をご近所に届けることも毎年恒例になっており、利用者が地域で暮らし続けられるよう関係づくりをされています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議への参加や通信等をご家族・地域・行政の皆さまへ配布、ホームでの取り組みを発信しています。アクティビティーケアの報告や認知症のタイプ別の支援の取り組みなどの報告を行うことにより、地域や家庭で困っている事の相談も受けるようになり、アドバイスすることもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	共用デイを実施したく、意見を聴かせていただいたところ、入居されている利用者が落ち着かなくなるのでは、職員さんがもっと大変になるのではと否定的な意見が多く聞かれました。利益目的ではなく利用したい方がいるからであることをもっと詳しく時間をかけて説明しなくてはならないと気づかされました。現在再度検討中です。	詳細な議事録が残されており、地域の方々と様々な課題について話し合わせ、運営推進会議をサービスの向上に活かせるよう取り組んでいることが窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加、地域包括支援センターからの介護相談員の派遣受け入れ等協力関係が取れています。	地域包括ケアを見据えた行政参加の会議も開催され、積極的に参加して連携できるように取り組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待について研修を行い知識を身につけてもらっています。「これって拘束？」「これって虐待？」と職員同士が考え対応できるような環境になっています。	職員は身体拘束の内容、弊害を理解して支援されており、身体拘束は行われておりません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当年度は虐待のニュースが多く報じられたように感じます。タイムリーなニュースの発信により虐待を身近なものとして考え、話し合い考えあう時間が取れるように心掛けました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の資格取得者も増え、成年後見や権利擁護事業について内容を習得できている職員数も増えたようです。今後も理解と活用ができるよう研修等にて学びの場を提供してまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法が改正されたり、料金が変更になったりや沢山の变更项目があったように思います。都度利用者のご家族の皆様には文書をもとに、わかりやすく説明ができるように努力をおこないました。变更项目については再度同意をとり、新しい規定を送付させていただきました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は必ずご家族さんと職員・管理者が言葉を交わす時間を設け、意見・要望を聞けるよう心がけています。また、投書箱の設置、電話やファックス、メールなどでも連絡を頂、家族さんとのコミュニケーションをとっています。	家族とのコミュニケーションが図られ、気軽に話してくれることも多く、出された意見や要望は職員間で検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表社員との年に1回の個人面談により意見を聴いています。職員一人ひとりの成長に伴い色々な意見が出てくるようになりました。職員の意見を素直に聴き取れる耳をもてるよう代表社員・管理者は心がけています。また、意見を反映できるよう努めています。	日常業務の中で管理者、事務長を通じて現場の意見が代表に伝わって改善に繋がっており、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、参加研修の内容、個人目標などを確認し個人面談に望んでいます。一人ひとりの職員に会社が求める姿を気づかせ、正しい職員像へ導いてくれています。処遇改善加算をいただき、職員へのサポートおこなってくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表社員自ら研修に参加し学んでいます。職員が研修に参加したいときは勤務体制を柔軟に調整、希望になるべく答えられるよう努めています。自ら休日を使い研修に参加している職員もいます。本人の向上心を妨げないよう管理者・代表社員は金銭面等にてサポートおこなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手市グループホーム情報交換会に積極的に参加し、他のグループホームとの人事交流を行っています。そこで得られた気づきやアドバイスをサービス向上に生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員をワンツーマンで対応させています。一人の職員が対応することにより信頼関係が早期に築きやすく、要望や不安が話しやすい、また職員が気持ちを察しやすい体制です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族も困っていることが多いです。困っているからサービスを利用しなくてはならない状況なのだと思います。利用者本人以上に多く話し、今までの生活の大変さを共感するように心がけています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物たたみ・食器拭き・畑での野菜づくり・収穫作業等、一緒になって行える時間を大切にしています。他人同士ですが、擬似家族のような温かみのある関係が築けるよう言葉や態度に気をつけて接するようにしています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が発する家族さんへの愛情の言葉や行動を逃すことなく伝えることを心がけています。お誕生日などにプレゼントをいただいたときは必ず、本人からお礼の電話をいただいています。電話ができない方でも喜んでくれる表情の写真と礼状を送るようにし、絆が断ち切られないよう支えています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人の面会が途切れることがないように、いつでも来ていただけるような雰囲気づくりに努めたり、職員が付き添い面会に出かけたりしています。	馴染みの美容院をいつも利用されている方、家族や自宅の近所の方が訪ねてきてくれる方、帰宅される方等々、利用者のこれまでの習慣を日常の支援に活かせるよう取り組まれています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での自由な居室訪問があり、その場でお茶をしたり、昼寝をしたりする姿も見られます。ホールで過ごすことが多い利用者の皆さんも互いに声を掛け合い相手を気遣う姿が見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当年度の退居は1件、ご飯が食べれなくなったの病院への入院でした。2ヶ月後お亡くなりになりましたが、その後も家族さんがホームへ立ち寄ってくれたり、ホーム側からも行事のお土産などを送らせていただいたり関係が続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なにげない会話の中にあるご本人の要望や思いに気づけるよう心掛けています。散歩や買い物、縫い物や見たいテレビ番組など小さなことにも職員だけでなく家族・支援者全員で、できる限り対応行っています。	家族からの情報や日々の関わりを通して意向の把握に努め、記録に残して情報を共有しています。アセスメントに活かせる記録となるよう模索されており、記録の仕方を工夫しながら利用者の状態把握に努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく現在の生活スタイルを把握できるようにご自宅など、生活空間を拝見させていただいています。自宅の間取り、居室の中のベッドの位置・筆筒の位置、ご自宅での生活状況も観察行い、ホームへ入居されても大きく異ならないように入居前に対応できるように心がけています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の行動観察をおこない、起床時間・就寝時間・決まった行動などを早い時期に把握できるよう心がけています。現状の心身状態、有する力については小さな出来事や話しなども記録に残し職員全員が情報を共有し把握に努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、職員の思い、家族さんの思い、皆違うことがあります。本人の負担にならない支援を心がけていますが、家族さんは物足りなさを感じておられることもあり、双方の思いの違いを埋めることが難しく感じています。	全員でモニタリングを行い、本人本位の介護計画となるようにカンファレンスが行われています。	家族の意向を反映させるための計画の立て方を工夫されることを期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員個々のその日の気づきを記録に記入することにより、情報の共有ができ、同じ方向性を持って支援にあたることができている。また、介護計画の見直しにも役立っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自分で家族や親戚、馴染みの店と連絡を取り合い外出したり、面会に来ていただいたり、少し離れた場所でも地域交流が継続できています。職員一人ひとりは利用者を取りまく資源の把握に努め、馴染みの理美容店やスーパーへの同行支援おこなってくれています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、ご本人、ご家族の希望や、病歴に関わった医療機関への通院助成・受診支援を行っています。かかりつけ医の先生方も往診対応してくださり、その方を支える協力体制をとってくれています。	利用者、家族の希望に沿って受診、往診が行われています。個々のかかりつけ薬局とも連携されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護指導や個別の訪問、24時間電話での相談対応行っていただくことにより、体調不良時も早期の対応ができています。看護師は細かい相談にもこころよく対応してくれます。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・訪問看護師と話し合いながら、チームでの支援方法を考えます。協力病院への入院により、病棟の看護師さんからも本人の状況をこまめに聞くことができる関係です。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階からご家族の意向を聞かせていただいています。重度化になられたときも再度お気持ちを確認させていただき、医師や看護師、介護職へ報告、持病や体力、対応できる環境等の確認をチームで行い、支援方法を考えます。	状況に応じて医師、家族と話し合いを重ね、終末期に向けてチームで対応できるように体制を整えています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による体調変化時の特徴や初期対応など場面場面で教えていただくことにより実践に近い状況で身につけることができます。経験の浅い職員は研修や先輩職員からの指導により実践力を身につけられるよう対応しています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練では地域の方の参加協力があるほか、緊急通報が入るシステムが整っています。夜間を想定した駆けつけ自主訓練も実施できました。	地震を想定した訓練、備蓄食料での防災昼食会を行い、二次避難先を決めています。これまでの反省からユニット間の連携の必要性を痛感し、訓練方法を変えて実施する等の取り組みをされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活暦に合わせた立場の対応を心がけています。先生や保健師だった方、社会に出たことのない方、皆さんそれぞれにプライドの高さが違います。よそよしくなく、なれなれしくなくを心がけ、人格を尊重し対応おこなっています。	馴れ合いに気をつけ、利用者を理解し、個々に合った対応をされています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事の時には必ずご本人に伺って決めていただいています。うまく表現できない方にも思いを察することを心がけています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の皆さんも、この職員さんが好き、この職員は嫌いとは区別されている様子、好きな職員に対応して欲しい為順番を待っている姿があります。一人の職員に偏らないよう全員が気に入られるような対応を心掛けたいです。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で生活されていたときの服やアクセサリーを持参してくれています。新しい洋服もなるべく自分で選んでいただけるよう心掛けその人らしさが現れるよう支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいのかを聞き、献立に取り入れています。料理や盛り付けの手伝いもしてくれ、一緒におこなう作業により会話も増え、笑顔も多く見られています。料理の他にもおやつ作りもおこなっています。料理よりも簡単な作業でできるおやつ作りは皆さんに人気です。	利用者がこれまでの生活の中で培った方法を教えていただいたり、時節の行事に合った料理やお菓子づくりを行い、一緒に楽しめるように企画されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスの取れた食事が提供できるように指導行ってくれています。食が細くなった利用者へは決められた時間での3食提供ではなく、食べたいときに食べたいものが食べられるよう対応行っています。食品の形状もソフト、ミキサーと対応し、水分や栄養がきちんと取れるように心がけています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの口腔状況にあった用具を用意、介助が必要な場合は義歯の他、自歯や舌も汚れが残っていないか確認を行い、清潔の保持に努めています。洗面台でのケアに拒否が見られたり困難な方はソファやベッド上での介助にて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	綿パンツから紙パンツ対応へなられた方が増えました。年齢が増すごとに失禁回数が増してしまいう現状です。利用者からなぜ漏れるのか？の声があり、利用者同士で話をさせていただきました。体操をした方が良いとの声もあり、下腹部に力を入れる体操しましたが、笑って終了、かえって漏れてしまったようでした。	利用者の状況に応じた声かけ、誘導が行われ、トイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事摂取内容や量の把握、運動量の把握をし、足りない部分を補ったり、乳製品の摂取や繊維質のものを多く提供するなど、自然に排便がされる工夫と同時に下剤にての対応も行い便秘にならない様に努めています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日にちや時間を特に決めず、入りたいときに入れる支援を心がけています。入浴が困難な場合でも手浴・足浴・全身清拭にて対応に努めたり、利用者によっては2人体制で安全に入れるよう支援を行っています。	いつでも入浴できるように準備され、利用者の希望に沿った柔軟な支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	抵反発マットなど身体状況にあった負担のかからないものを使用していただいたり、使い慣れた寝具を使用してもらったり、テレビやラジオの音量、照明を調節し、眠りやすい環境の提供を行っています。また、個々の入眠時間の把握に努め個別に就寝の誘導や声かけを行っています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護師、薬剤師より薬についての目的や副作用を教えていただいています。薬が追加になったり変更になった場合は状態をよく観察し、担当医師へすぐに連絡を取り、支持をいただいています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜収穫、花の観賞、散歩や買い物、室内だけにこもらない対応を心がけています。利用者の一番の楽しみは家族と過ごす時間と思ひ、電話や面会をしていただけるよう家族さんからも協力をいただいています。絆・繋がり、安心感をもって心から楽しめるように心がけています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるよう付き添いの支援おこなっています。ご自宅近辺の行事やお祭りにもご家族の協力を頂、出かけられる方もいます。	南部シルバーエリアや近隣施設の催し、季節の花見に出かけ、ぶどう狩りは毎年恒例の外出行事となっています。玄関前のベンチで外気浴を行ったり、利用者の希望に沿った支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行こうと誘ってもお金がないからいかないと言う人が多くなりました。家族に迷惑かけるからとのお気持ちが強いようです。そんな中でもティッシュや歯磨き粉など日用品を買うことができるよう家族さんにも協力を頂、少ない小遣いからのやりくりを職員と一緒にがんばってもらっています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が気軽に電話を使えるように柔軟に対応しています。手紙のやり取りができるように便箋やはがき、切手の購入支援や、ポストへの投函支援も行っています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう空調設備や照明設定をこまめに行っています。ホールや廊下は殺風景ではなく、また、ごちゃごちゃにならない様に常心がけています。	ホールは広々としてそれぞれの居場所が確保され、家庭的な雰囲気を感じられる生活空間となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の他、皆が集まって楽しむことができる広いホール、自由に使うことができるこあがりの畳スペースなどがあり、思い思いに過ごしていただけるように環境が整っています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の設置を最優先に考え、現在のADLや認知状況にあった家具の設置、スペースの確保をし、安心安全に過ごせるように心がけています。また、自作の貼り絵や塗り絵、家族からの手紙や写真を飾ることにより温かみのある空間となるように努めています。	自宅と変わらない環境に近づけるように慣れ親しんだものが持ち込まれ、安心して過ごせる環境づくりに配慮されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に目印となる物を掲示したり、トイレにも大きな文字で張り紙をすることでわかりやすい工夫を心がけています。また、廊下やトイレ、浴室など手すりの設置により安全に移動行えるようになっています。廊下も広く、シルバーカーや車椅子での生活も安心して過ごすことができます。		